



かんしょ

英語でスイート・ポテト。ヒルガオ科のただ一つの主要食糧作物。アサガオとも同類。メキシコ、コロンビアなどのアメリカ大陸の熱帯地域を原産地とする説がある。

コロンブスがヨーロッパに持ち帰り、まずスペインで植えられ、イタリアは土地が合わず1963年西アフリカへ、1576年ベルギーに、1597年イギリスに、17世紀にマニラ、マライ、バタビアに広まった。

次いでルソンから福建へ、それからカライモとして琉球へ、元禄頃琉球いもとして薩摩へ、享保頃サツマイモとして日本全国へ広まった。

昭和32年全国の推定実収高は6,228,331トンで、本県は498,740トン、鹿児島県の1,031,930トン、千葉の552,920トンに次いで全国第3位にある。県下では銚田町(30,361トン……昭和33年以下同じ)勝田市(26,901トン)旭村(23,757トン)が主要産地である。世界的産地は北米合衆国の南部と南方アジア、日本など。

フィリピンでは、かんしょをカモテといい、「カモテで暮す」といえば一般に極貧を意味する。大言海には「貧民多く糧とす」とあるが、終戦直後は貴重品であつた。



就任のことば

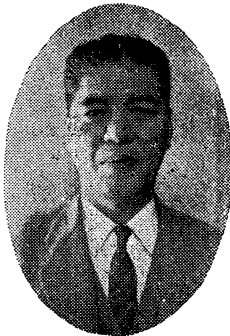
茨城県総務部長 秋山喜市
茨城県統計協会会長

このたび総務部長に任命され、併せて統計協会長として、皆様方と共に統計の仕事にたずさわることになりましたが、統計について日頃考えておりますことを申し述べましてご挨拶に代えたいと存じます。

元来統計という仕事は非常に地味なものであるため一般にその理解や、関心の度合は低調であります。

しかしながら統計の果す役割が、現在の社会に対し、いかに重要であり、大きなものであるかは、今更申し上げるまでもありませんが、国や地方自治体における各種の行財政はもとより、いろいろな産業の振興、育成に関する施策も、表面にこそ表われませんが、その根本は統計によつているのであります。すべての生産は統計という眼に見えない力をバックとして成り立っているといつても過言ではないと思うのであります。

このように考えてまいりますと、統計の重要度が、おのずから認識されてくるのでありまして、ここに統計という眼に見えざる生産に黙々として従事しております皆様方に心から敬意を表しますと同時に、今後更に統計業務の普及向上に努められ、本県における産業発展のための土台を築いて頂きたいとお願いいたします次第であります。



就任のあいさつ

茨城県統計課長 根本倉吉
茨城県統計協会副会長

このたび行われました県の人事異動により、10月13日付をもちまして統計課長に就任いたしましたので、ここに紙上をかり、日頃から敬愛いたしております統計関係者の皆様方に一言御挨拶申し上げます。

ちようど私が就任いたしました2日後に、大阪で第10回の全国統計大会が開催され、その経過や報告などを見聞いたしますと、統計という仕事が、多くの人々の長年の努力によりまして、今や大樹に成長いたし、けんらんたる花を咲かせる時期に到達したのをしみじみと感ずります。その規模は全世界にわたり、その内容は人間社会のあらゆる分野からの需要に応じております。

ひるがえつて、本県におきましても、統計事務の独立による統計課の誕生後一年を経過し、その業務はようやく円滑な軌道に乗つたと考えられ、さらに今春、岩上新知事の就任によりまして、県民のためにより多く利用出来る統計資料の充実が強く要請されており、目下資料の整備、閲覧室の拡充等に努めております。

このように見てまいりますと、統計という仕事が、次第に地味な仕事から花やかな仕事に——時代の花形に移りつつあるのが分ります。

来年度は国勢調査、農林業センサスと二つの大きな統計調査が控えており、統計界はまさに諸事多端と申せましょう。この時に当り、統計課長に就任いたしましたことは、今更ながらその職務の重大さを感じます。

行政の分野にかかわらず、現在の社会機構はすべて精密な組織の上に成り立っておりますが、統計もまたあの精巧な集計機械が象徴するように、整頓された組織によつて作り出されるものと思ひますが、今回その組織の一員に加わりました私に対し、よろしく御べんたつと御指導を賜ふようお願い申し上げますと共に、皆様方の御健闘をお祈りいたします。



離任のあいさつ

人事委員会事務局長 柏原 誠

昨年9月県庁機構の一部改革に伴い統計課として発足しましたが、それと同時に私は統計課長を拝命し爾来1年余を過しましたが、この度の異動によつて、人事委員会事務局に転任することとなり、統計関係の皆さまにお別れのあいさつを述べることになりましたことは、今後多くの仕事を控えて後髪を引かれる思いがいたします。

顧みますれば着任当時は、各支庁の統計事務が統計課に集中されましたので課員も70人になんなんとする大世帯となり、この管理面について「これは容易でない」と感じたのですが、幸い課員相互の理解ある御協力によつて、和気あいのうちに仕事をすることができましたことは、私の生涯の中の大きな思い出として印象されることでしょう。

統計調査もいろいろの面で飛躍的な発展を遂げておりますが、統計調査員の資質の向上も最近めきめき改善され、調査員としての基本的な理念をよく体得した方々が非常に多くなつてきているということは、数年前に思い比べ感慨にたえないものがあります。

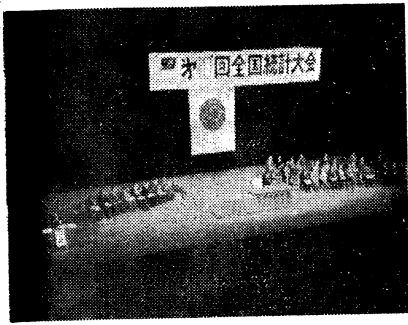
第一線に活動されている調査員のかたがたの苦労は、全く察するに難くないのでありますが、統計調査の高度化に伴つて、更に一層技術的なデリケートさが要請されることになり、今後益々研究向上が必要となつてくると思います。

来る1960年はまず2月に農業センサスを始めとして7月の事業所調査、商業調査、10月の国勢調査など重要なしかも規模の大きい調査があり、関係者の多事を想わせられますが、どうか日頃の経験と技術を高度に発揮し立派な成果を挙げられるよう心から祈る次第であります。

終りに「統計茨城」の発展と統計関係者の御健康を祈つて離任のあいさつといたします。

(前茨城県統計課長)
(前茨城県統計協会副会長)





大 阪 へ の 旅

～第十回全国統計大会に参加して～

田 中 文 司

第10回全国統計大会の開催地大阪を目指して、東海道本線を西下する。雄大な富士のお山は相変らぬ秀麗さで青く澄み、海岸線の松の緑と相和していつもながら旅情を慰めてくれる。ミカンはまだ青いが、豊作らしく枝ミたわわに美事な出来で、小田原辺りまではまことに隠やかな眺めであるが、一步静岡に入ると、先日の伊勢湾台風の爪跡が車窓に写りはじめいままさらながら、あの台風の規模の強さと、自然の猛威のたくまさをまざまざと、眼のあたりに見せつけられる。浜松辺りに至ると松を除くすべての樹木の緑が強風と潮風のためにか、ほとんど茶褐色に変色し、竹の葉などは全く灰色と化して、ちょうど冬枯れの光景を呈している。水稻は倒伏し、五年続きの豊作の夢も無惨に打砕かれ僅かに残った穂も粒が少なく衰れさを催す。根こそぎになつた大木、中途から引裂れた木、瓦葺の多いこの辺の屋根は、グシの瓦がむしり取られているのも痛々しい。普段ならこの辺の風光を賞でながらの楽しい旅であるのだが、今日ばかりは何んとなき気分も沈んで黙り勝ちになるのも人情であろう。岡崎を過ぎると更に周囲は荒んでくる。この辺から倒壊家屋も目立つて多くなり、熱田辺りの沿線には高潮と強風に叩きのめされ、破壊された家屋の残骸が、畳戸障子、家具類や日用品など山のように打ち寄せ、すでに臭気を放っている。ここから名古屋にかけてますますその惨状がひどくなり屋根にはビシヨ濡れの布団の綿のみが乾されており、これからの寒さに向う生活のほどが他人事ながら思われ、自然の力の威大さと、政治の貧困さが今更ながら痛感させられた次第。こんな現状を見ながらの道中を終つて名古屋駅から望見される復元された名古屋城の金色に輝く〃シヤチホコ〃を眺めながら〃あの城を復元する費用で名古屋港の防波堤の強化をしていたらこれほどの災禍は見なかつたろう〃と言つた誰かの言葉は後の祭りながら、しみじみと思ひ出されるほど余りにも皮肉な対象として眺められた。走る車窓から一寸眺めただけでもこの程度に災害の跡が見られるのだから海岸線沿いの罹災地の惨状は想像もつかないほどである

うなどと考へている中に旅の疲れでうとうととする。

その中に舞台は一転してネオンの海、夜の大阪に着く。ここは今までの暗い眺めとは打つて変つた華やかさ。イルミネーションに輝く名城大阪城が駅からも望見される。

大阪市の人口は二百万余、商業、工業の都市だけあつて、周辺は工業地帯で黒煙をさかんに吐き、中心部はネオンの灯もまばゆい〃喰い倒れの街〃その大阪の大動脈ともいふべき道頓堀に茨城県関係の宿舎がある。まず宿に着いて女中さんに大阪の名物はと聞くと、〃岩おこしまむし、すし〃だと答へる。なるほど喰い倒れの街だけあつて名物が喰べ物ばかりとは面白い。特にまむしは蛇にあらず関東のうなぎのこと、勘定高いのもこの名物の一つ？面白いといへば言葉も又面白い。コイさんと言うのは大阪のお嬢さんのことだそうである。荒つばい茨城弁とは対象的にやわらかみのある関西弁、向うの人同志で話し合つている言葉は一寸判り難いようだ、向うもこちらの言葉は判り難いから相ツコだが。それから名物の一つは橋の多いこと縦横に走つている川、川といつてもドブ川に懸る八百八橋ということだが現在では千以上もあるそうだ。橋の名も〃橋づくし〃で歌われているようにさまざまあり、心齋橋、日本橋、四ツ橋、天神橋、戎橋、道頓堀橋など有名な橋が相並んで賑やかな通りから通りを結んでいる。天神橋の近くにある天満天神はココはこの細道じや天神様の細道じやの童唄で有名であり、また東京の神田祭、京都の祇園祭、それからこの天満天神の天神祭が日本の三大祭りとして有名であるそうだ。

つれづれなるまま宿を出て、ブラリと夜の街をさまよう。大阪の盛り場といへば、まず梅田、千日前、道頓堀から心齋橋筋、林芙美子の小説〃めし〃に出てくるジャンジャン横丁、お上りさん、お下りさんの群に混り、人波に押されながらブラリブラリといへばいかにもゆつたりとしているようだが、実はキヨロキヨロ、物珍らしげに田舎者丸出しで歩いたわけ。道頓堀の夜景はさすがに

歌や詩に出てくるだけあつて、赤い灯、青い灯、五色のネオンが川面に写つて別天地に遊ぶ感じだつた。昼はドブ臭い川だが夜になると値千金というところ、ネオンの規模も一つで数百万円というのもあり大阪商人のたくまじき商魂を見せつけられるようだ。心齋橋筋の人並もまつたくすさまじく、喰べ物屋など軒を並べて「喰い倒れ」を歌歌しているようだつた。

心齋橋筋というのが、大阪駅を南の方向に向つて走る主要な道路には、みな筋という言葉がつく。流行歌にも出てくる御堂筋、道頓堀筋、堺筋などの名称がそれである。

夜を彩るものの一つに近代的設備を誇るキャバレー、バーなどのきらびやかな女性にも、ちよつと田舎者には縁が遠く、財布の中身がそれ以上に恐ろしいほどの豪華さだ。夜の遊覧バスに乗ると大阪随一のキャバレー美人座を一寸のぞくことができる。コマ舞台上に展開される関西美人のきらびやかなシヨウに目をうばわれ、半身もあらわな美人ダンサーにも好奇の瞳をキョロキョロ、ここから賑やかな盛り場を徒歩見物、新世界に出て通天閣に昇り夜の市街の美しい眺めを満喫する。ここにジャンジャン横丁がある。大阪城は電光に浮び上つて輝き、石垣の石の大きさにも豊太閤の武威が偲ばれている。大きな石は縦に6米、横11米余にも及び、昔この石をどういう方法でここまで運んだものかと考えるのも興味が深い。

泊つた旅館は盛り場特有の賑わいで、午前三時頃までは自動車の喧騒と酔客の怒声などで眠られず、やつとまどろむと六時頃からまた喧騒がはじまる。僅か一夜の大阪の夜は眠らせてくれなかつた。

統計大会の会場は、中の島の新朝日会館の中にある東洋一を誇るフェスティバルホール、もちろん本大会の会場としては初めての豪華な会場だそうである。入口から会場全体に赤いジユウタンが敷きつめられ喫煙室以外はすべて禁煙、愛煙家にはお気の毒みたい。この大会に全国から馳せ参じた統計マンの数は約3,000人、本県からの参加者は50人であつた。

午前9時30分、大会の幕は満場の拍手のうちに始められる。地元大阪府知事、大阪市長のあいさつに引続き大会長大内兵衛氏のあいさつがあり、表彰式に入る。表彰は統計マン最高の榮譽である大内賞の授与、各省関係の表彰、本県関係では農林大臣賞が大洗町、出島村、北茨城市、個人賞が波崎町溝口書記に授与され、次いで全国統計協会連合会長賞の栄に輝く川上県農林統計係長、つづいて統計論文、統計図表の表彰が行われ、祝辞、祝電

披露、祝辞には益谷國務大臣（行管長官）なども登場して色彩を添える。受賞者代表の謝辞があり表彰式を閉じ議事に入り、宮城県調査課長の「地方統計の自主性の助長について」神奈川県統計課長の「統計調査員報酬の増額要求について」和歌山県統計課長の「統計予算の諸問題について」山口県萩市統計課長の「統計機構の問題点について」などの議案説明があり、直ちに全議案を審議委員付託とし、午前の行事を終了した。

昼の休憩時間には会場の中ホールに展示された統計図表入選作品を観る。さすがに全国から選ばれた作品だけあつて、小学生の作品でも構図、色彩など申し分なく、中学、高校生の作品は大人も及ばぬほどの優秀作品であり、一般では商売人が画いたかと思われるほど鮮かな出来栄で参観者を感嘆させた。

午後1時から研究発表を行ない、統計事務従事者の日頃の体験にもとづく貴重な発表は参観者を感銘させ、つづいて議事を再開、議案審査の経過報告ののち、これを万場一致で採決し、これが実現方について強力に関係方面に折しよする旨の報告があり、来年の開催地を岡山県で開催することに決定した報告につづき、岡山県統計課長のあいさつがあり、次に宣言、決議を万場一致で可決し、法政大学学長大内兵衛先生の「新しき日本の歩み」と題する講演を最後に、今後の統計事業の輝しき発展を祝して力強い万歳三唱が大会場をゆるがし、ここに意義深き第10回統計大会の幕は閉ざされたのであつた。

私は、この大会に参加された大勢の統計マンが、大会の意識を認識し、終始熱心に、和氣あいあい^いに楽しい一日を、統計発展のために一致団結してまい進する真剣な姿に心から感激し、いかに地味な縁の下の力持的な統計業務であつても、この仕事^いが現在の社会に対して有する意義の重要性を改めて再認識し、統計マンとしての誇りと自覚が胸中に湧き、豊かな感激に浸ることが出来た。

午後4時からは近畿各府県の好意による、地方色豊かな珍らしい郷土民芸が、遠来の人々を慰さめてくれ、午後6時意義深き大会場に別れを告げた。

帰途は時間のあるままにバスで奈良に立寄り、東大寺奈良公園を見学、人懐っこい鹿に愛着を感じ、日本一の美男子大仏様を拝み、宇治の平等院を巡り、「夏草や莖者どもが夢の跡」の感慨に更けりながら京都に向い、これも馳け足で清水寺や、その付近の名勝、旧蹟に往時を偲びながら京都駅から、夜の急行で関西の地に別かれを告げ、塩辛い味噌汁が恋しい郷土に向つて暗の東海道を一路東に進んだ。



全統連会長賞の光栄に浴して

川上正之介

われら待望の統計の大祭典第10回全国統計大会は、秋たけなわの10月15日、大阪府ご自慢の新朝日会館において盛大に開催されました。

本県からは統計課長を始め、市町村長、統計関係者等40数名が参加しました。私は被表彰者の一員として参列の榮に浴しました。

この日大会場につどう統計マンは3,000余名、さしも東洋一を誇る会場も統計一色に塗り換えられた感がありました。開会は予定どおり午前9時満堂をゆるがす拍手のうちに開幕し、地元を代表して大阪府知事ならびに大阪市長の歓迎のことば、続いて大内大会長のあいさつのことばがあつてのち、統計マン最高の栄誉である大内賞の授与、各省大臣の表彰と進められ、いよいよ全統連会長の表彰に移り、自分の名が呼ばれた時の感激はまたひとしおでありました。

顧みますれば、昭和22年統計界に身を投じて10数年、主として農林統計に従事して参りましたが、これとして目立つ功績もなく、ただ平凡にその日を送つたに過ぎないのに、かかる表彰を受けようとは夢にも思つていなかっただけに、誠に恐縮至極であります。

今回の榮は一に上司をはじめ先輩諸兄のご尽力と、同僚各位のご協力、市町村統計関係者および調査員の皆様方の御支援の賜と深く感激いたしている次第であります。

いまや国際的の大事業である世界センサスの準備が進められているおり、決意を新にして統計事業向上発展のため微力をつくし今日の榮譽に答えたいとたく誓うものであります。
(県統計課農林統計係長)

第10回全国統計大会宣言

全国統計人の結束と統計の発展とを願つて開催された全国統計大会は、ここに第10回を迎えていよいよ盛大となつた。この間、わが国統計の発展はきわめてめざましく、統計の制度、技術もまた著しい進歩をとげた。

われわれは自ら作成する統計が、わが国の発展の指針または基盤として重要な役割を果していることに大きな誇りを感じるとともに、朝野を問わず、将来、統計の利用がますます高まつてゆく時勢からみて、より高度の自覚と責任とがわれわれに要求されていると感じる。

また統計は国の姿を世界へ示す好個の紹介状であり、かつ信頼できる統計が国と国とを結ぶ強い絆であることを思えば、われわれは国際人としての自覚を念頭において、常に国際社会への関心を高め、内外の新しい統計の歩みを探究することに努めなければならない。

われわれはここに思いをいたし、第10回全国統計大会が開催されたのを機会として、わが国の統計の今日を築かれた諸先輩の努力に敬意を払うとともに、わが国及びわが国の統計の発展を願つて次のとおり決意する。

- 1, われわれは、近代国家における統計の意義と使命を自覚し、統計の充実と普及に努めるとともに、統計の発展をはばむ一切の障害を克服しよう。
- 1, われわれは、統計が世界共有の文化財であることを認識し、新しい統計知識の研さんにはげみ、国際社会から最高の評価を与えられる日本の統計を作ろう。
- 1, われわれは、統計作成の分野が将来ますます多岐にわたり、その内容もいよいよ複雑化する情勢にあると認めるので、統計調査の円滑な遂行をはかるために、あらゆる知能を結集し努力のすべてを傾けよう。

右宣言する。

昭和34年10月15日

第10回全国統計大会

第10回全国統計大会本県関係被表彰者

農林大臣表彰

沿岸漁業臨時調査

大洗町 北茨城市 出島村

(調査員) 溝口敏男

全国統計協会連合会会長賞

茨城県総務部統計課 川上正之介

統計教育も万能ではない

関 照 次

1 研究実践記録から

私たちは日々の教育指導の中で、努力する割合にむだが多かつたり、役に立たなかつたり、要点をぼかしたりして、いつの間にか惰性に流されてしまうことがたびたびあります。そこで私たち自身にも合理的な考え方、実証的にものごとを処理する態度が必要であることを知ると同時に、子供たちへの指導にも充分考慮せねばならない点が発見されます。特に低学年では根気よく継続的にそしていろいろの角度からの工夫が必要であると思います。又児童の統計的な見方、考え方の態度や能力を培うために、学校や家庭や社会生活の中にある、もつとも身近なことがらを観察し、根気強く○、×などを用いてメモする習慣を身につかせ、それを平易な形で分類し図表化する事も一方法かと思えます。くどくど説明などするより、直観に訴えてなぜこう「なつたのか」という原因までも考えるようになったら、子供たちは反省し向上が望めるのではないのでしょうか。このようなことを考え、児童たちに統計の意義、活用を学年なりに理解させ健全な暮らし方、能率的な学習を望みたいと念願してまいりました。そこでありふれたことですが、私の実践してみた二、三のものについて述べてたいと思います。

A 生活指導に統計を利用

一年生から二年生へと引続き、○×の図表を利用して指導に役立たせました。低学年ではちよつとのことですぐけんかをはじめ、自分勝手なわがままが目立ちます。又落し物や忘れ物が非常に多く、落着きがなく、その場限りの傾向になりやすいのです。そこでよりよい生活をめざすために次の目あてについて話し合い、よい子の図表を作ることにしました。

○わたしはいいこ

調査項目は、児童の実態に即して習慣化させたい面をとりあげました。調査は毎日と週一回の二通りにして実施いたしましたのであります。その日、その週の終りに○×の集計したものを表にかきこみ、自己反省をさせて、約束を守るように努力させてきました。

集計された結果によりますと、各週とも月曜日に忘れるものが多いことがわかり、そこで、生活指導として土曜日に、忘れ物をしないように躾けたのであります。その結果は、大変よくなつて来たのであります。

まだ特殊な子がいて×がついても平気で、忘れると先生がつけてくれるからという子に限つて、二日くらいたつと又なくなってしまうのです。こうした子の中には、たつと忘れてくる子、ぼんやりして忘れる子、能力がなくて忘れる子といつたありさまで、このような自分から進んで参加しようとしないうの子のために、グループ意識を持たせることにしました。グループ内で一人でも持つてこない、忘れる子がいたら○にならない事になるので、初めは二、三人のためになかなか○にならなかつたのでありますが、数日過ぎますと相互に責任をもつて注意しあうようになり、大変効果的であります。注意せねばならない点は、この意識がすぎて約束のできない子をいじめたり、あるいは仲間はずれにしたりするといったことのないように留意せねばならないと思うわけであります。

わたしはいいこ		2の1 A 5.11~5.18		
月	日	5.11	5.12	5.13
は	み が き	○	○	×
な	ふ だ	○	○	○
て	ふ き	×	○	
ち	り が み	○	○	
つ	く え の 中	×	○	
ぞ	う き ん	○	○	
げ	た ば こ	○	○	
ま	と め	○	()×	
ま	い に ち 行 う			

わたしはいいこ				
○ よ い		× わ る い		
月 日		5.18	5.25	
ま	も る こ と			
手	あ しの つ め	○	○	
し	た ぎ	×	○	
み	み あ か	×		
ボ	タ ン ホ ッ ク	○		
ま	と め	○		
週 一 回 行 う				












同じような方法で、実施したものに、次のようなものがあります。

○こんしゅうのめあて

毎週発表される目標についてグラフを作り、実践状況を書き入れる○、×を記入することに興味をもつとともに、知らず知らずのうちに努力事項の徹底もなされるようになったのであります。

○いいこはだれ

しかしながら、このような作業を通して習慣化をはかる点で、非常に効果的であるが、おたがいにつげ口を言つて他の児童の悪いところを見つけようとする反面良いことはちつとも表われないので、下図のようにして競争をさせてみた。これは親切にしたり、仲良く勉強したり何でもよいことにしたのです。いい子のいるグループの欄に顔をかいていき、よい行いをしたことを学級で認めあつていくうちに、目のとどかなかつたところでの遊び、いたずら、危ないところへ行つて遊ぶといったことが、だんだん少なくなってきた感じがします。ともかく、他人のいいことはほめあい、自分でもよいことをしようとする態度がいくらか芽生えてきたのではないかと考えているものであります。

いいこはだれ			
			
			
			
			
も	ば	う	つ
も	ら	め	ば
			き

○持ちものしらべ

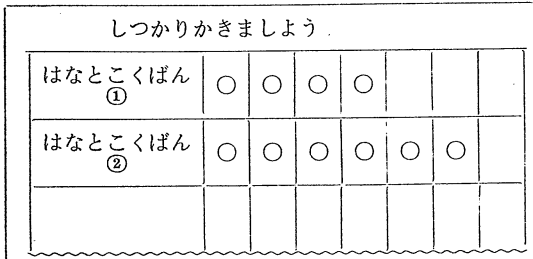
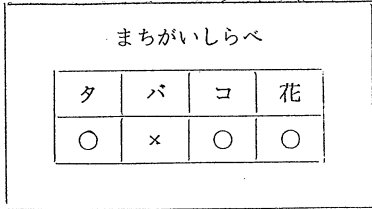
係の児童が班ごとにしらべることになっております。全部持ちものが揃っている人は○をもらうわけです。持ちものには全部記名させて物の数を常に確認させておきますと、忘れたり落したりするとすぐ気がつき、物をむだにすることも少なくなるように考えております。これもグループ別にまとめた事によつて一層徹底させることができたように思います。

わすれません 5.1~5.8 (もちもの)			
×	○	○	○
○	○	○	○
○	○	×	
○	○	○	×
○	○	○	
も	ば	う	つ
も	ら	め	ば
			き

B 学習効果の向上のために

現在問題となつている基礎学力の充実について、確かさをもつ習得という点を重視して、工夫してみました。その断片であります、国語における漢字、カタカナの習得という点について述べてみたいと思ひます。

よく、ノートをしらべてみると、非常にまちがいが多かつたり、わからない字などをよくみつけるのであります。これをみて、いつも「なぜこうなつたのか」これをたすけるためには、どうしたらよいかと考えさせられるのであります。そこで、まずその原因はどこにあるかをよくつきとめ、各個人についての誤答表の作成を考えたのであります。個人別に「しつかりききましよう」というわけです。成績の得点を記入するグラフを作りました。一回のテストは10題にして、朝の実習時に実施します。昼休みに各自で正しい数だけ○で記入し、まちがいしらべの表に実施した漢字、カタカナを正しくかきこみます。下の段には出来ていたら○、まちがっていたら×を書き入れます。それをまちがいしらべ用紙にはりつけておきます。それは、家庭学習自習時に自分のまちがいやすい文字の練習になり、各自の進歩をめざした能率的な練習、進んで学習するきっかけになりました。間違いは調査の結果、不注意によるものが43%で、何度指導しても12%しか少なくなかなかつたのであります。それが表への記入を始めたところ大変に減つて、注意深く見る態度と丁寧に書く習慣がだんだんついてきたように思われます。



○……………出来たかず

はなとこくばん

①——一回目

②——二回目

まちがいしらべ

かんじ	年	生	字	赤	チ	ユ	ウ	リ	ツ	ブ
まちがった数 第一回目	28	28	30	11	3	2	3	0	16	8
正しかつた数	28	28	36	45	53	54	53	56	40	48
まちがった数 第二回目	22	11	8	6	3	2	3	0	5	5

調査人員 56名

調査日 { 4月13日——1回目
4月28日——2回目

2 生活と統計

前述した実践記録は、大貫小学校における実際活動の一部分を掲載したに過ぎませんが、十分に統計を駆使して生活指導、学習指導の効果をあげていられる点、まことに敬服させられました。

われわれの生活と統計の結びつき方を考えました場合統計を利用することによって直接になにか変化を与える結びつき方が一つあると思います。このことは、大きく言えば統計を基礎として、直接的な影響が与えられた場合で、これは計画化、合理化と結びつく場合であります。前に述べたような実践例はこれであるわけですが、計画化、合理化も度を過ぎては問題であります。学校社会は、いわば一つの共同体でありまして、師弟を結びつけているのは師弟愛の情であり、この愛情をぬきにしては考えられません。愛情というものは元来合理的

計画的なものではありません。共同体の本質から考えてそれを統計という手段で、無理に合理化、計画化しようとし、合理性からくる非合理性とでも言えましようか、そこに摩擦が生じてくることにもなります。そこでやはりその限界をはつきり押えてかかる必要が大切になつてくるのであります。ある目標を達成するために、生活を合理化することは止むを得ないことですが、統計的手法による合理化、計画化には一定の限度があることも考えたいと思います。生活指導のような場合を考えてみましても、先生方が指摘されているような問題が出てまいりますので、こうした面をどのように導いていくか、やはりこれらは教師の温かい愛情によつてたすけ、しかも合理性からくる非合理性といったものにならぬように留意したいものだと考えております。

(県教育庁庶務調査課主事)

統計教育研究学校

研究 年次	研 究 課 題	学 校 名
3	教科学習に統計をどのように活用したらよいか	東茨城郡大洗町立大貫小学校
〃	算数及び特活における統計教育	那珂郡緒川村立小瀬第一〃
〃	統計教育の進め方	常陸太田市立菅田〃
〃	統計教育の実践的研究	行方郡玉造町立羽生〃
〃	小学校における統計教育の実践	筑波郡豊里町立今鹿島〃
〃	統計教材の編成とその指導	水海道市立菅原〃
〃	特活における統計教育の実践	北茨城市立精華〃
〃	道徳教育における統計資料の活用	石岡市立府中〃
〃	特活における統計教育	西茨城郡友部町立大原中学校
〃	統計を活用した能率的学習展開	鹿島郡神栖村立神栖第二〃
〃	学習効果を高めるための統計教育	稲敷郡茎崎村立茎崎〃
〃	特活における統計教育の研究	古河市立古河第二〃
〃	統計教育による地域社会の開発	下妻市立下妻〃
〃	生活指導と統計の利用	北相馬郡取手町立永山〃
2	教科学習を通して統計教育の実践研究	水戸市立石川小学校
〃	生活指導における統計教育の位置と体系確立	新治郡新治村立新治中学校
〃	中学校における統計教育の実践	結城市立江川中〃
1	学習指導における統計教育の研究	笠間市立笠間小学校
〃	〃	久慈郡大子町立上小川〃
〃	小学校における統計教育の研究実践	稲敷郡江戸崎町立江戸崎〃
〃	教科学習における統計教育の研究	結城郡千代川村立大形〃
〃	中学校経営と統計教育の活かし方	勝田市立勝田第三中学校